

オ

リンピックから1年後の北京を訪れた。まず出鼻

から巨大な新空港に驚かされた。こんなデカイ屋根を見たことがないという圧倒的な空間である。そしてオリンピックのメインスタジアム「鳥の巣」と「水立方」(ウォーターキューブ)は、いずれも最先端のテクノロジィを結集したデザインだが、今でも観光客が絶えない。20年近く前に初めて北京を旅行したときには考えられない都市の変化だ。最初は古建築や近代建築を見学するのが目的だったが、4年前の訪問と今回は活性化した現代建築が目を当てになっている。

とくにレム・コールハースが率いるOMAが設計した中国中央電視台のビルに期待していた。これはループ状につながったユニークな形状のCCTVと、異なる機能をジグザグにうねるスキーンで覆うTVCCの二棟から構成されている。おそらく、このビルは、むしろ今年の2月に火災が発生し、全世界にライブ

で映像が流れたことでよく知られているだろう。最初に燃えていると知った瞬間、テロではないかと思っただが、火花が原因だった。ともあれ、竣工の直前に燃えたTVCCがどうなっているのかをこの目で確認しなかった。

そもそも、このプロジェクトは、ニューヨークの都市研究で有名になったコールハースが、あえて9・11跡地開発のコンペに参加せず、発展する中国に未来を託して、北京のコンペで勝利したものだった。それだけに事故とはいえ、ビルの火災はあまりにも皮肉である。

さて、現場だが、CCTVは新築のピカピカの姿をあらわす一方、その隣のTVCCは焼けたままの状態が残っていた。てっきりすぐに解体されたと思っていた人も多いだろう。しかし、完全に残っているのだ。兄弟ビルは、新築と廢墟という対極的な姿で並んでいる。

一棟が使えなくなった結果、必要な床面積が不足し、中国中

央電視台は旧社屋からの引越しが難しくなっている。ゆえに、CCTVはまだ入居前の状態だが、すでに北京のビジネス街において、コールハースの新作は

すさまじいインパクトを放つ。遠くからも目立つ。つまり、建築としては完成していないが、ランドマークとしてはもう完成しているのだ。

高さを競争してもいずれば抜かれる。世界貿易センターの双子ビルはテロによって消滅した。しかし、CCTVとTVCCは、ループ状につながったビルという比類なきデザインと、数奇な運命によって、オンリーワンの存在感を獲得している。●

北京の忘れがたい 兄弟ビル

@Beijing



中国中央電視台の
新本部ビル(CCTV)。
左は火災で焼けた
ままのテレビ文化
センター(TVCC)。
北京にて 写真提供:筆者

をちこち散歩

五十嵐太郎

いがらしたろう
建築史家
東北大学教授